

判断ミス防止訓練に向けた意思決定課題の基礎的評価

北村康宏 井上貴文 佐藤文紀 中村竜 小野間統子 中川千鶴

作業場面での意思決定は短時間で終わることが多いですが、短時間で行う直感的な意思決定は、非合理的になりやすい(偏りやすい)ことが知られています。これを改善するためには、まず意思決定には偏りやすい傾向があることを、教育担当者や意思決定の実施者自身が把握し、自覚する必要があります。

そこで、個々人の意思決定の偏りの傾向を知ることができる、鉄道作業現場の実態を反映した意思決定作業課題を開発しました。278件の判断ミス事例から、判断ミスが発生しやすい「作業場面」と「心理傾向」に対応し

た二種類の意思決定課題を開発しました。課題はパソコン上の作業に取り組むもので、簡単に実施することが可能です。さらに、これらの課題実施中の脳活動をfunctional magnetic resonance imaging (fMRI)にて測定し、意思決定の課題として適切であることを明らかにしました。

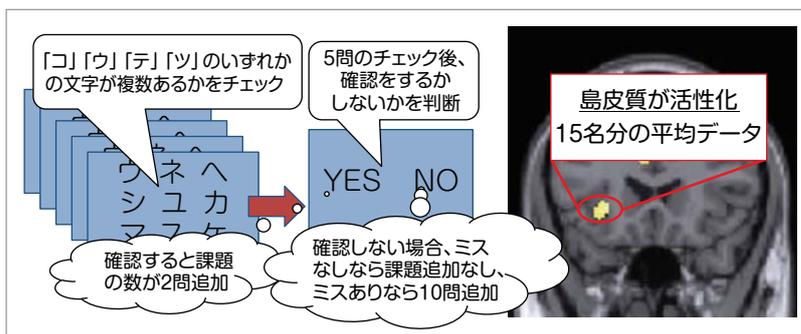


図 意思決定課題と実施中の脳機能画像例